

DXを推進し、地場産業を
活性化させ、若者が定着で
きる地域の創出
に努めます

議会報告だより 一般質問Q & A

令和7年6月一般質問から

Q 福祉バスを充実したコミュニティバスへ高齢者や免許返納者、障がい者などの交通弱者を始め、だれでも利用できる移動手段を確保するためコミュニティバスが必要です。

A 福祉バスは主に睦大学の交通手段確保となっておりますが、誰もが利用できるコミュニティバスでもあり、高齢者に限らず通院や買物に一般市民も活用しています。しかし、利用者が年々減少し、運転手不足などの課題もあり、庁内の関係部署や関係機関などと協議し、持続可能なコミュニティバスとしての運行を目的とした再編計画の策定に取り組んでいます。



Q ひきこもり支援体制の整備と施策について

A 市としてひきこもり状態にある人の実態調査などは実施しておりません。7年度から重層的支援体制整備事業を実施しており、引きこもり支援を位置付け、社会的孤立や困難を抱える人々への支援に取り組んでまいります。アウトリーチ支援や居場所の提供も重要であり、今後は研修などで支援者のスキル向上を図り、実践力強化に努めます。

Q ふるさと納税事業へのアドバイザー登用について

A 専門的な知識やスキルを持った人材登用は効果的であると考えますが、専門の事業者2社に再委託しており、市と市観光物産協会、委託事業者との連携により現在の体制で事業を推進してまいります。

令和7年12月一般質問から

Q 交通事故非常事態宣言について

A 市は、交通死亡事故ゼロを継続しておりますが、交通指導員による朝夕の街頭指導の強化を実施するとともに、市役所庁舎入口への啓発ポスターを掲示し、盛岡西警察署などと連携し、交通事故防止に取り組ましました。

Q 新たな財源の確保について

A 中期財政見通しでは、財政調整基金の残高は毎年減少する見込みとなっており、災害や緊急の支出に備えるべく一定の基金残高を確保しながら、安定した財政運営とするため歳入の拡大は重要です。国の補助制度をはじめ、あらゆる歳入に関する情報を収集してまいります。

Q 児童虐待の現状と取組について

A 令和6年度の受付相談件数は68件であり、対前年度比で18件増となっています。児童福祉法に基づき、保護を要する児童や養育支援が必要な家庭を早期に発見し、「要保護児童対策地域協議会」を設置し対応しております。また、こども家庭センターを設置し、全ての妊娠婦、子育て世代、こどもに対して、出産前から子育て期に係る支援を行い、虐待への相談支援体制を整えております。



議会審議の様子

ボランティア活動から

上の山かんからボランティア

毎月第4日曜日
午前8時から
上山団地公園
上山団地内の新聞紙や段ボール類、空き缶などの資源回収を行っています。



スローショッピング ～認知症になっても住みよいまちづくりプロジェクト～

毎週木曜日
午後1時から3時
マイヤ滝沢店
認知症や障がい者などのサポートが必要な人の買物のお手伝い。スローレジでゆっくりと支払いができます。

介護家族のつどい ～認知症の人と介護家族のつどい～

毎月第3日曜日
午後1時30分から3時30分
滝沢市市民福祉センター
認知症の介護体験者や家族が集まる相談の場です。



みんなのがっこう!!

毎月第1・3日曜日
午前10時から12時
かんの事務所

学びたいけど自分にあつた学びの場がない。学校に行っていないけど学びたい、かけ算がわからない...など。どなたでも学べます。その人にあつた学びの場です。一度ご相談ください。



「こどもまんなか社会」なのに どうして児童虐待が増えているの!



2023年4月にこども家庭庁が設立され、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、こどもの健やかな成長と権利を擁護するための取組が進められています。しかし、体罰・児童虐待・いじめは依然として深刻な問題として、こどもの命と尊厳を脅かしています。なぜ、児童虐待は増え続けているのでしょうか?



●児童虐待とは

保護者がこどもの体や心を傷つけてしまう行為のことで、法律で禁止されています。児童虐待であるかどうかの判断は、保護者の気持ちにかかわらず、こどもの立場から見て「こども自身が苦しんでいるかどうか」「こどもの成長のためになっているか」で判断されます。

●児童虐待の現状

全国の児童相談所が対応した児童虐待相談の件数は年々増加し、2023年度には約225,000件に達しています。こどもの命が奪われるような痛ましい事件も後を絶たず、児童虐待の防止は、まさに社会全体で取り組まなければならない課題です。本県における2023年度の虐待相談対応件数は2,992件で、前年度から362件増加し、過去最多となっています。

●4つの虐待(児童虐待は、児童虐待防止法に基づき以下の4つに分類されます)

- ①身体的虐待: 殴る、蹴る、叩く、火傷を負わせるなど、身体に苦痛を与える行為
 - ②性的虐待: こどもへの性的行為やポルノグラフィの被写体にするなど
 - ③ネグレクト(育児放棄): 食事を与えない、ひどく不潔にする、病気になっても病院に連れて行かないなど、育児を怠る行為
 - ④心理的虐待: 言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別、目の前で家族に暴力をふるう(DV)など、精神的な苦痛を与える行為
- (心理的虐待59.8%、身体的虐待22.9%、ネグレクト(育児放棄)16.2%、性的虐待1.1%となっており、心理的虐待が約6割を占めています)こどもの目の前で激しく言い争う「夫婦げんか」も「面前DV」「心理的虐待」と判断され、家庭不和はこどもたちに深刻な影響を与える恐れがあるため、注意する必要があります。

●なぜ児童虐待は起こるのか

なぜ、虐待が起こるのでしょうか?「家族間のストレス」や「経済的な困窮」など、さまざまな理由が挙げられますが、その根本にあるのが「孤立」です。親が社会から「孤立」する。

例えば、○子育てのストレスや悩みを相談できる人が身近にいない。○経済的に苦しい。やりくりできない。でも、助けてくれる人がいない。○祖父母など家族に介護や看護が必要な人がいて、思うように働けない。○忙しさとストレスで、心身共に疲れ切っている。頼れる人がいない。など、親自身が、社会的に弱い立場に置かれ、理不尽な扱いをされたり、差別されたりすることで、「やり場のない」怒りや悲しみ、思いなどの矛先が、こどもなど家庭内で弱い立場の人に向かいます。実際、こどもだけでなく、高齢の祖父母が虐待される例もあります。

●「しつけ」と称した「体罰」

2018年3月に東京都で5歳の女児、2019年1月に千葉県

野田市で小学4年の女児が虐待死した事件は、いずれも父親から「しつけ」と称した体罰として繰り返し暴力を受けていたと報じられました。

「体罰」が、こどもの成長や発達に悪影響を与えることから、国は2019年6月に「親権者等は児童のしつけに際して、体罰を加えてはならない」と法令に明記しました。

●児童虐待からこどもを守る取組

児童虐待を防ぐ取組は、年々強化されています。「児童福祉法」「児童買春・児童ポルノ禁止法」「学校教育法」といったこどもを守る法律に加え、2000年に「児童虐待防止法」が制定されました。また、2025年改正児童福祉法は、保育所などにおける虐待への対応を強化しました。

●出産前後 親や家庭へのケアに重点

児童虐待の多くは、「加害者」が「実母」である割合が高く、妊娠や出産、育児期のストレスが大きく影響するとされています。このため、産前産後に心身の不調や悩みを一人で抱え込まないように、必要な時に周囲の支えが得られるように、こども家庭庁は2024年に「こども家庭センター」の設置を自治体の努力義務とし、取組を推進しています。

具体的には、乳幼児健康診査、新生児訪問などの母子保健事業や育児支援家庭訪問などの子育て支援事業において、児童虐待防止の視点を強化し、虐待のハイリスク家庭など、養育支援を必要とする家庭を早期に発見して適切な支援が受けられるようになりました。

●「社会全体で子育てする」考え方を広めよう

子育て中の親たちが家庭内で孤立しないよう、「社会全体で子育てする」という考え方を広めていくことも大切です。

●児童虐待を早期に発見するための取組

「虐待を受けているこども」や、「支援を必要とする家庭」を発見するため、滝沢市は令和6年4月にこども家庭センターを設置し、保健師・助産師・家庭支援員・虐待対応相談員などの専門職を配置し、妊婦さんや子育て家庭の困りごとに寄り添い、相談に応じています。さらに近年、各地で取組が広がる「子ども食堂」や「居場所事業」なども、訪れる親子の状況を発見する上で、重要な役割が期待されています。

●「あれって虐待かも」とおもったら?

- 滝沢市こども家庭センター019-684-6511(子育てダイヤル専用)
- 「児童相談所虐待対応ダイヤル189番(いちばやく)」(24時間365日)にかけるとお近くの児童相談所に繋がります。

●オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン

「児童虐待の防止等に関する法律」が施行された11月を「児童虐待防止推進月間」としています。オレンジリボンには子ども虐待を防止するというメッセージが込められています。



日頃からの地震への備えをしましょう!

12月8日(月)は青森県東方沖を震源とする震度6強の地震が発生。気象庁は、続けて大規模地震が発生する可能性が高まったとして「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表。日頃から地震への備えを。